

平成22年度 海外渡航旅費助成金成果報告書

名古屋大学大学院 環境学研究科 地球環境科学専攻

小林由実

平成22年度（後期）海外渡航旅費援助を受けて、2010年12月13日から17日の5日間サンフランシスコで開催された **American Geophysical Union (AGU) 2010 Fall Meeting** に参加し、ポスター発表を行ってきましたのでその成果を報告します。

私は今回初めてこの学会に参加しました。学会前日の夕方に開かれた **Ice Breaker** に参加した際、まず会場の広さと人の多さに驚きました。また、学会初日に会場へ向かう時にはポスターのケースを持っている人など会場へ向かう人の流れが大きく、この学会の規模が想像していた以上に大きいことを感じました。そして、地球科学物理学の分野で、様々な国の人が様々な研究をしていることを実感し、学問の幅広さと奥深さを体感しました。

学会初日には、事前に自分の研究のキーワードでもある **anisotropy**（異方性）でプログラムを検索し、“**Monitoring Temporal Changes of Earth’s Properties With Seismic Waves**” というポスターセッションを主に聞きに行きました。ポスター会場のあちらこちらで、議論が繰り広げられていました。その雰囲気刺激を受け、準備不足を少しでも補うため研究の概要のプレゼンテーションなどを練り直し、翌日の発表の準備に臨みました。

学会2日目の午前中に、私は“**Active Monitoring in Geophysics**” というセッションでポスター発表を行いました。発表タイトルは“**Monitoring of the Nojima Fault structure using Accurately Controlled Routinely Operated Signal System (ACROSS)**” で、主に断層破碎帯における異方性の時間変化について発表しました。初めは緊張のあまりうまく言葉が出てきませんでしたが、言葉足らずなところはジェスチャーを交えることで補い、説明する回数が増えるうちに少しずつスムーズに話せるようになりました。私の研究では人工震源を用いており、多くの自然地震を用いた異方性の研究と異なっている点に興味を持たれた方が多かったことが印象的でした。そして、自分自身で設定できるコアタイム以外の時間には、ポスターの縮小版を設置しておいたところ、たくさんの人に持ってもらうことができ、研究の成果をより多くの人に伝えることができました。

学会の話からは逸れますが、滞在中にサンアンドレアス断層を見学する機会を得ました。長さ1000km以上におよぶサンアンドレアス断層のなかで、**Hollister**にあるクリープしている場所を見学しました。断層は年間1cmクリープしており、すでに歩道が30cmほどずれていて、地面の動きを目で確認できました。地球が活着しているように感じられ、改めて地球科学の面白さを確認することができました。

最後になりましたが、日本地震学会による海外渡航旅費助成金の援助をいただき、貴重な経験を積むことができました。このような機会を与えて下さったことに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。